ラグーナ蒲郡 24 億円の経常赤字

海洋リゾート「ラグーナ蒲郡」を運営する第三セクター、蒲郡海洋開発株式会社の 3 月期決算が公表された。それによると売上高は 59 億 1700 万円で、ほぼ当初計画通りの水準であったが、経常損益は 24 億 8600 万円の赤字を計上した。施設の償却負担が重く、減価償却費が膨らんだことによるもので、黒字化は減価償却のピークが過ぎる 07 年 3 月期になる見込みという。

昨年 3 月、UFJ 銀行を主力行として約 400 億円の貸付をしている銀行団が、200 億円の債権放棄を通告して事業から撤退した。債権放棄分以外の 200 億円の貸付金は、トヨタ自動車が低利で肩代わりした。その後トヨタ主導で経営見直しを行い、事業内容や費用を大幅に縮小した。まさに「トヨタがつくるテーマパーク」「海洋型複合レジャー施設」である。ラグーナは銀行団の撤退に象徴されるように、事業開始前から採算性が不安視されてきたが、1 年目は集客や売り上げなどで「健闘」している。テーマパーク「ラグナシア」の入場者は、目標より 10 万人多い 110 万人、商業施設「フェスティバルマーケット」は目標の 220 万人を大きく超えて 312 万人を集めたという。

テーマパーク不況が叫ばれるなかで、「ラグナシア」の健闘ぶりをどう見たらよいか。学生たちの「ラグナシア」評価は、開業当時あまり芳しくなかった。東京のディズニーランド、大阪の USJ にくらべて施設など見劣りがして、魅力に欠けるというものだ。確かに 1 年目は開業効果があるため目標を上回ったが、2 年目以降はリピーターの確保が課題となる。これは会社の方でも承知のことで、アトラクションの工夫、温泉施設やタラソテラピーセンター、教育施設の新設など対応に必死である。

このラグーナ蒲郡については、第三セクター問題として注目してきた。発足当時の蒲郡海洋開発株式会社の出資構成は、愛知県 27.3%、蒲郡市 23.8%、トヨタ自動車 15.8% などだ。第三セクターによる開発はトヨタ主導とはいっても、愛知県と蒲郡市で全体の 51%を占めている。とかくトヨタの経営戦略ばかりに目が向きがちだが、地方自治体がこうした開発型第三セクターに多額の出資をしていることの意味を問う必要があろう。

(6 月 23 日記)